

1ドル50円、日経平均 7000円時代到来

「超円高・超株安」

ニッポン 何が起きるか読み切る

日経平均株価

8753.36

-190.40

「失われた20年」を経て、日経平均は3割弱に萎んだ

初めて見る光景

異常な円高・株安は「炭鉱のカナリア」。この国に目に見えない「有毒ガス」が充満しているという市場からの警告だ。針路を誤れば即死が待っている。戸惑うニッポンの迷走が始まった。

円高・株安が止まらない。米国の「格付けショック」を契機に円買いが加速、76円から75円、そして70円を指す動きに突入した。株式市場ではホンダ、パナソニック、ソニーといった優良銘柄が年初来最安値を更新、トヨタ、任天堂なども株価が「低空飛行」を続けている。

こんな超円高・超株安で影響を受けるのは企業や投資家だけではない。企業が「自己防衛」のため海外脱出を開始、いわゆる企業城下町を中心に大変な事態が起きている。

愛知県はトヨタを中心とした自動車工場、部品工場などが集まる日本の製造業の中心地。梶見昌朗氏は常時200社以上の中小企業を顧客に持つコンサルタン

トとしてこの地をつぶさに見てきたが、最近の惨状は目を覆うばかりだという。北見氏が名古屋市内を歩いて回ると、名古屋駅前にタクシーがやたらと多い。2列3列で客待ちをするのは「初めて見る光景」。不況にあえぐ企業がコストカットを余儀なくされているのだらう、地下鉄やJRの構内を歩くと広告ボードはガラガラ。

「空洞化」で受注量が激減するか、納入価格を大幅に削られている。北見氏は愛知県に本社を持つ中小企業社員約2万人の給与明細を収集、その実態について調査している。さきごろ最新調査をまとめたところ、次のような悲惨な結果が出たという。

「50代の一般職男性で年収500万円に満たない人が54%と、多数派」になっており、賞与（ボーナス）をもらっていないのが5人に1人となった。不況がないと言われてきた土地が一変、深刻な事態に見舞われている」（北見氏）

鹿兒島県出水市も「産業空洞化」の煽りを受けている。

かつて企業城下町として栄えた面影はもうない。プラズマテレビのパネルを製造するパイオニア鹿兒島工場、液晶パネル製造のNEC鹿兒島工場が撤退してから2年。同市商工労働課長の樋口孝志氏は関東、関西をまわって企業誘致の声掛けを続けるが、「跡地に新規参入してくる企業はいな

い」。16万㎡の土地が野ざらしになっている。

「パイオニアさん、NECさんが撤退してから雇用が1000人規模で減りました。彼らの所得は合わせて約50億円あったので、市政への圧迫も著しい。夜も賑わっていた飲食店が閉散としていく」（樋口氏）

残っている企業の工場があるうちはまだ耐えられるが、さらに「撤退」が続けば市経済は壊滅的なダメージを受けるといふ。「この円高がどこまで続くか、心配です」と樋口氏は語った。円高で国際競争力を失いかねない大企業は、争って海外進出を図っている。しかし、それで困るのは国内に残された個人である。

国内の雇用がどんどん失われ、失業率が高まる。並行して給与水準も下がり、働いても働いても一向に収入が増えない。ワーキングプアが大量発生するのだ。実はこれとそっくりなことが、すでに米国で起きている。

それは「アップル化現象」と呼ばれるもの。米国アッ